

斑点米カメムシ対策について

- ・近年、斑点米カメムシが多発生しています。防除を怠ると斑点米だけでなく、不稔籾になるなど収量にも大きく影響します。
- ・カメムシ類が多発生したほ場では、圃場 1 筆が全面不稔となり収穫できなくなるケースも見られています。

■ 斑点米や不稔籾を作るカメムシ類



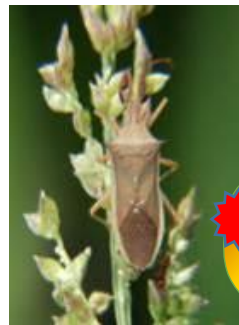
イネカメムシ



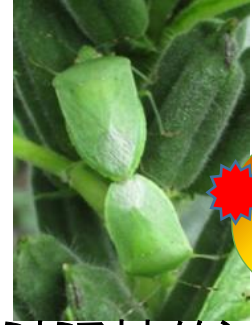
クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



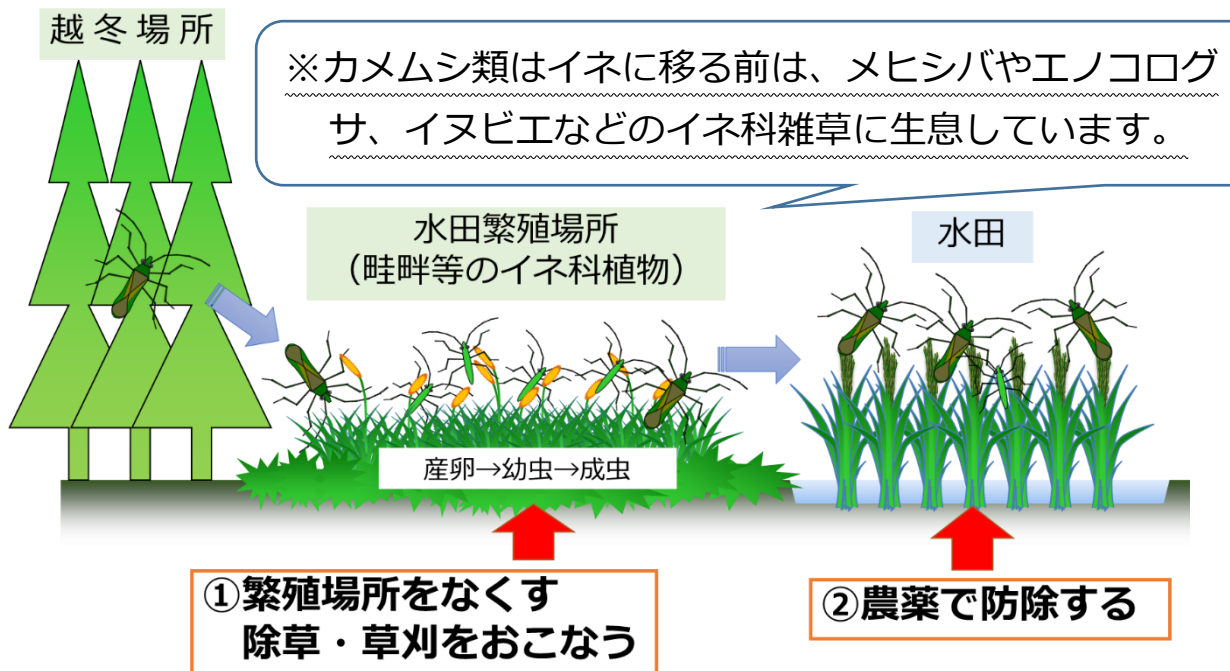
ホソハリカメムシ



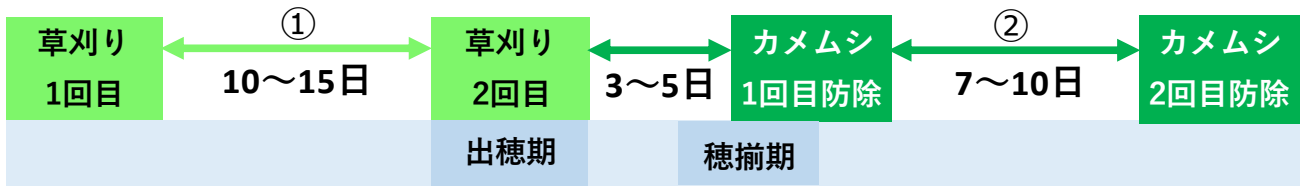
ミナミアオカメムシ

被害大きい・不稔

■ どこで、どのように増える？ 防除のポイントは？？



■ 防除のポイント



① 畦畔や休耕田など水田周辺部の草刈り

- ・畦畔や休耕田の雑草は、カメムシにとって絶好の棲みかであり、増殖源です。そのため、草刈りは非常に有効な手段です。
- ・草刈りを2回行うと高い効果が期待できます。
- ・1回目の草刈り後、雑草が再び出穂するまでに2回目の草刈りを行うことが重要です。

<草刈りのタイミング>

1回目：出穂 10~15 日前

2回目：出穂期（圃場全体の約半分の茎から穂が出た状態のとき）

※どうしても1回しかできない場合は出穂 10~15 日前に行う。

「出穂直前に1回だけ」や「出穂後に1回だけ」の草刈りは、畦畔や休耕田で増殖したカメムシを水田内に追い込むことになるので避けて下さい。

② 薬剤防除

- ・穂揃い期を中心に防除を行います。
- ・発生が多い場合は、さらに7~10日後に追加防除を行ってください。
- ・地域一斉に防除するとさらに効果が高くなります。
- ・農薬は、ラベルをよく読み使用量、使用回数、使用期限などを厳守して使用して下さい。

③ 収穫後の耕起

- ・再生イネがカメムシのエサ場や、越冬場所となるため、収穫後は早期に耕起を行いましょう。